

研 究 課 題 名 : COPDのセルフマネジメント教育プログラムの開発及び効果的な介入方法

申 請 課 題 名 : タブレットPCを用いたCOPD患者のセルフマネジメント教育システムの開発と効果的な介入方法に関する調査研究

調査研究代表者氏名: 植 木 純

評価コメント

・セルフマネジメント教育を在宅で行うiPad用のソフトの画像は興味深く拝見させて頂いた。iPadが患者さんに十分に使用される様、インパクトのある指導が十分なされておくことが肝心であると思う。

・COPDで患者教育が必要な年齢層は大多数が高齢者であることを前提にして研究を進めなければならない。セルフコントロールのためのタブレットPCのソフト作成にも、iPadの使用にも果たして高齢者がそれらを使いこなせるか否か十分な配慮が必要である。COPDの患者に体操は必須であり、それをソフトに盛り込むことは良い考えである。ただ、教育プログラムの有用性を実現させるためには、患者指導は繰り返す必要があり、現状の医療制度の枠内で誰がこれを負担できるのか十分に検討してもらいたい。

・タブレット用のソフトプログラムの開発に時間が掛かっているが、今後はコストパフォーマンス、実地施行者(ケアマネージャー、ホームケア担当者)を含めた検証に進むことを期待する。

・経済的負担を考慮したタブレット利用促進の方策を検討して欲しい。

・iPadを用いたセルフモニタリングは、時代を意識した方法と思うが、現状では利用者側の年齢、習熟度、機器の購入などを考えると、普及に問題があるのではないかと危惧される。

・手軽にかつ安価に使用できるタブレット型PCを用いて感受や教育を行うという斬新な試みであり、そのコンテンツ内容を検討中であり、内容はほぼ決まっているが、完成して平成25年度のパイロット試験に持っていけるか？

・地域連携へのツールとしての有用性を確認し、COPDの認知度の上昇、運動との協同展開を考慮すべきであろう。

・在宅のCOPDの患者にどのようにトレーニングやリハビリ方法を伝えていくかの新しい手法を開発するもので、今後に期待できる。対象は、医療従事者に限らず、医療福祉従事者に広げていけばより効率的と思われる。

・アプローチは問題ないが、事前評価においても問題となったように、機器やプログラムの使用方法の習熟がCOPDの患者層で可能であるか否かを早急に検討しておく必要がある。セルフマネジメント教育はすでに諸外国でもその有用性が報告されており、本邦でもその重要性は認知されている。また患者さんの希望するところでもある。内容の決定、パイロット試験の計画書、倫理委員会等を急ぎ実行する必要がある。